Newsletter No.6 2014.6.7

kaerunomaru 新聞

特定非営利活動法人　エコ・エコ

ザリガニのこと（昭和の子供　鈴木孝雄）

①呼び名

子供の頃、田んぼを遊び場にするときにはたいていマッカジンを捕まえにいきました。アメリカザリガニのことですが、なぜマッカジンというのか、ネットサイトのアチコチを眺めてみました。マッカジンではなくマッカチンというのが一般的なようです。60 年ほども昔のことなので私の記憶違いか、あるいは旧浦和市の田園地帯でなまったのでしょうか、マッカジンだと思いこんでいました。それにしてもどうしてマッカチンと呼ぶのでしょう。真っ赤で珍しいから。そうかもしれません。いろいろ調べたあげく、あだ名や仲良し同士で名前を呼ぶ時の語尾につけるように、チンは可愛いやつといった意味合いでの接尾語ではないか、との仮設を披露している先人がおられます。なるほど、敬服します。

ですが、私にはどうもマッカチンという呼び名自体がなじめません。チンがついてもオスというわけではありませんし、第一語感が軽くなります。真っ赤で大きなハサミを振り上げて威嚇するポーズは、さながら大魔神のごとく、マッカジンの方が納まり良いように思います。私の独りよがりでは話にならないでしょうが。

ただし、辞典にはマッカチンもありません。広辞苑や大辞林には出ていません。死語になったからかと思いましたが、昭和 40 年代の広辞苑にもありませんでした。つまりアメリカザリガニをどうしてマッカチンと呼んだかは依然として分からないままです。

呼び方にはエビガニというのもあります。この方が共通語といいますか大人にも先生にも通じる言葉でした。

ウィキペディアには「生物の分類学」に沿った解説もあって、ザリガニはエビの一種であり、カニではないが、クルマエビなどに比べるとカニやヤドカリに近い、のだそうです。エビガニこそ言い得て妙だ、ということになります。どなたか分類学の先生が命名したのかもしれませんね。しかもこれは辞典にもちゃんと載っていて、ザリガニ類の俗称。アメリカザリガニをさすことが多い（大辞林）とのこと。

しかし、泥だらけになって遊ぶ子供たちは生意気な年ごろにもなっていて、上品な言葉や丁寧な言葉遣いは格好悪いから遣いません。しかし、呼び名を変えるということの意味は誰もが分かっていました。はっきり区別し、際立たせることです。

マッカジンは真っ赤で大きくなければいけません。左右のハサミがそろって大きく、体長 10 ㎝を超えるような立派なヤツを捕まえればその日のヒーローです。

②釣りと手づかみ

ザリガニを捕まえるのは網、釣り、手づかみのどれかです。網はどちらかというと小さい子たちです。その網を小さい子より先に使って、まずは中途半端なザリを捕まえる。この尾をちぎって皮をむき、プルプルの白身を凧糸で結び、途中の竹やぶで調達した篠竹を釣りざおにして、マッカジンがいそうな深場やため池に狙いをつけます。しかし、いつも辛抱強くじっと釣れるまで頑張れるわけではありません。

田んぼの畦の大きな巣穴を見つけてそこに餌を下すのも手ですが、これにもコツが要ります。餌に食いついて見えるところまでは上がってくるのですが、もうちょっとのところで穴の中に落ちて戻ってしまうのです。自分の重さに耐えられずに落ちてしまうようです。水中から釣りあげる場合には水面までは浮力があるので網を差し出せば間に合うのですが、巣穴だとそうはいきません。釣り上げるタイミングが難しいのです。

こうなれば後はエイヤッと手を突っ込むしかありません。肘辺りまで入ります。穴の中では手のひら全体でしっかりつかむのがコツです。指が挟まれて痛くともそのままズボッと引き抜きます。血がにじむほど痛ければ十分に大きく、ヒーロー誕生です。

誰に聞いたのか、ザリガニは畔に穴をあけて田んぼをだめにしてしまう悪いヤツ、ですから畔でつかまえる方が釣りよりは多かったように記憶しています。もっとも走り回って畔を壊し、こっぴどく叱られた方が多かったかもしれません。

捕まえたザリガニは餌になりました。当時の農家は庭先で鶏やチャボを飼っていましたから、バケツにいっぱいになるほど捕っても、友達の家に行って、そのままぶちまけておくだけで万事終了。最近のように、要注意外来種だから、田んぼや池、川などに戻してはいけません。最後まで責任持って飼育してください、というようなこともなかったなぁ。

今後の予定

7 月 27 日　第 4 日曜日
コウモリを観よう

8 月 24 日　第 4 日曜日
ナイトハイキング

9 月 28 日　第 4 日曜日
バッタの観察会

10 月 26 日　第 4 日曜日
種の不思議

11 月 23 日　第 4 日曜日
落ち葉で遊ぼう

12 月 28 日　第 4 日曜日
野鳥の観察

コラボイベント
9 月
デイキャンプ
11 月
花炭を焼く
12 月
リースを作る

参加者募集

活動日　マルコ　第 2 木曜日・第 3 金曜日　緑区南部領辻　トラスト 1 号地脇
活動を御支援ください。　寄付送金先　郵便振替　0110－0－711005
エコ．エコ
問い合わせ先　メール　kaerunomaru@gmail.com
tel&fax　048-874-9811（加倉井）

Newsletter No.6 2014.6.7

エコ．エコ (ecology. economy)

特定非営利活動法人　エコ．エコ

オタマジャクシの受難

アカガエルは埼玉県がレッドデータブックに載せているほど減っています。ですからその年の「卵塊第１号発見」はまだ吐く息が白くなる時期なのに、聞いた瞬間から気分が春めく朗報です。その後一つ増えた、五つになったと知らせが行きかいます。今年は昨年の倍ぐらいに増えました。エコ．エコはアカガエルがそこにいて当たり前のフィールドを復活させたくて活動しています。

アカガエル成体

アカガエル卵塊

事件１　　人という天敵

ところがある日、卵塊が四つあったはずの池に一つしかありません。どうやら盗まれてしまったようです。どうしてそこに卵があることを知ったのでしょうか。一般の人たちが出入りするところではないのです。玉網かひしゃくのようなものですくい取ったのでしょうか、一つは池のそばに泥ごと捨ててありました。一つの卵塊に数百の命です。たまたま全滅する前に発見したので何割かは救えましたが、悲しいできごとです。卵塊二つは持ち出したようです。

事件２　　自然界の天敵

母ガエルは自分が巣立った水場に戻ってきて産卵します。親が増えたから卵も増えたのでしょう。が、喜んでばかりもいられません。卵やオタマジャクシがたくさんいるということは、それを餌にする生きものにとっては楽園です。アカガエルの卵やオタマジャクシを好む生きものはたくさんいます。なかでも今年の事件はザリガニの大増殖です。今までだってザリガニはいました。しかし今年は驚きです。相当な量のオタマジャクシが食べられてしまったようなのです。小さな池なのにペットボトルで作ったザリガニ用のわなを仕掛けてみたら、一本の仕掛けに一晩で７匹も入っていました。体長５㍉ほどの生まれたてから６、７㌢の中堅クラスまでひしめいていました。今年の被害が来年の産卵に影響するのかどうか、気が揉めます。

アメリカザリガニ

事件３　　日照り続きも難敵

「春に三日の晴れなし」ということわざや「菜種梅雨」、聞かなくなって何年にもなるような気がします。さらに、たけのこ梅雨、卯の花くたし、なども。ことに埼玉県南部では遣うチャンスがなくなってきています。卵からオタマジャクシ、チビッ子ガエルに、と変態、成長していく過程（３～６月）は雨の季節だったのです。しかも流されてしまうような雨ではなく、しっとりした雨です。自然界が長い時間をかけて作り上げてきたそれぞれの仕組みに感心します。しかし気候変動、地球温暖化のせいなのか、水路から水がなくなってしまうほど晴天が続きます。最後の水たまりに真っ黒になるほどオタマジャクシが集まってしまいます。その先はさらに悲惨です。カラスの旺盛な食欲が待っています。こうした事件を超えてカエルになった後もまだまだ鳥や蛇が狙っています。アカガエルが生き抜いていくのも大変です。また来年、嬉しい産卵情報が行きかう日を楽しみに、アカガエルを応援しているわけです。

池とオタマジャクシの管理

アカガエルのオタマジャクシ

1cm ほどの上陸前のアカガエル

NPO 法人　エコ．エコ　さいたま市緑区大間木　１７５－２
kaerunomaru@gmail.com　　自然はともだち